

序論)

まずは皆さんにこの絵をみていただきます。みなさん、この絵をどのように見えますか？ 女の人が後ろを向いている絵に見える人、手を挙げてください。老婆の横顔に見える人、手をあげてください。

恐らくこの黒い部分を髪の毛だと認識している人は、後ろを向いた女の人にみえていると思います。また、この部分を目と認識している人は、横向きの老婆に見えているのではないのでしょうか。

この絵は視点を変えると後ろを向いた女の人にも、横向きの老婆にも見える絵です。このように私達は視点を変えると見えるものが違ってくることがあります。

今日の箇所は、【主】が、ご自分の民の視点を変えて慰めを与え、希望を持たせようとしている箇所です。神様がどのように【主】の民の視点を変えようとしているのか。みことばから教えられていきましょう。

背景説明)

簡単にこの箇所の背景を確認しましょう。神様は、背きの罪によってバビロン捕囚を経験しなくてはならなくなったイスラエルに対して慰めのことばをかけておられます。バビロンは偶像礼拝の盛んな地であり、その地に移された人々は人々から見下され、時には暴行を加えられ、自分たちには破滅しかないと思うしか無いような状況に置かれていました。

1) 慰め主の問いかけ「あなたは何者か？」

そのような中で【主】がご自分は何者であり、イスラエルの民が何者なのかを問いかけることばを投げかけておられます。12節を読みましょう。

51:12 「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者。あなたは何者なのか。死ななければならない人間や、草にも等しい人の子を恐れるとは。

神様はご自分のことを「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者」と宣言しておられます。「慰める」というのは、「心を和らげる」とか「あわれみをかける」という意味もありますが、「悔い改める」という意味もあります。皆さん、これまでに何度か説明したことがあります「悔い改める」とはどういうことですか？ そう、「向きを変える」ということです。神様は「向きを変える」ことによって慰め

を与えてくださる神様なのです。

だからこそ、【主】はご自分の民に対して一つの問いかけをされます。「あなたは何者なのか」と。みなさん、自分が何者なのかを理解することは、私達の人生において大事なことです。なぜならば、自分が何者なのかを知っている人は、環境や状況、人のことばに一々動揺しなくてよくなるからです。

バビロン捕囚に連れて行かれたイスラエルの人達は、自分が何者なのかを見失っていました。なぜならば、今まで自分たちこそ神様に選ばれた民だと思っていたのに、神の都であるはずのエルサレムは崩壊し、神の民であるはずの自分たちはバビロンに捕らえ移され、バビロンの人々の目を伺い、その人達を日々恐れて歩まなければいけない日々を送っていたからです。

だから、神様は 13 節の中盤で「あなたを造った【主】を、あなたは忘れ、一日中、絶えず、虐げる者の憤りにおののいている。まるで滅びに定められているかのように。」と言っておられます。イスラエルは神様のことを忘れ、ただただバビロン人を恐れる毎日を送っていたのです。

みなさん、神の民であるはずのイスラエルがどうしてここまで人を恐れるようになったのでしょうか？ それは彼らが自分たちを造った神様がどのようなお方で、その神様の民にされた自分たちが何者なのかを見失ってしまっているからです。

みなさん、神様にとってバビロンはどのような存在でしょうか。神様は、彼らのことを「死ななければならぬ人間」「草にも等しい人の子」(12 節) と言っておられます。つまり、イスラエルを支配しているバビロンも神様にとってはいずれ死にゆく存在であり、ただの草と同じように【主】が摘み取ろうとしたらいくらかでも摘み取れる無力な存在なのです。

【主】は、イスラエルがそのような無力な存在のことを恐れ、絶望していることに嘆かれておられます。なぜならば、(13 節表示) イスラエルを造った【主】は、「天を延べ広げ、地の基を定め」る【主】、世界の創造主なるお方だからです。

みなさん、ここで「あなたを造った」と言われている「造った」とは、創世記の最初に神様が人間を造った。あの一回限りのことを指しているのではありません。元のことばのニュアンスがわかりやすく訳すと、これは「あなたを造りつづけた【主】」となります。また、この「造る」という言葉の中には「働きかける」とか「行う」「実行する」という意味があり、神様がイスラエルに対して働きかけ続けておられることを意味しています。

みなさん、私達を神の民としてお造りになった【主】は、例え、私達が神様に見捨てられたと思えるような状況にあっても、私達に働きかけ続けておられ、私達を

神の民にふさわしいものにしようと、新しく造り変え続けてくださっているのです。

だから、神様はイスラエルに対して 14 節、15 節のように言われます。

51:14 うずくまる捕らわれ人もすぐに解き放たれ、死んで穴に下ることはなく、パンにも事欠かない。

51:15 わたしはあなたの神、【主】。海をかき立て、波をとどろかせる。その名は万軍の【主】。

15 節の「海をかき立て、波をとどろかせる」という表現は出エジプトの出来事を思い起こさせます。みなさん、神様はイスラエルをエジプトから脱出させた後、彼らを飢えさせたり、渴かせたりしたのでしょうか？ しませんでしたよね。彼らは確かに荒野という過酷な環境を旅しなければいけませんでした。マナという不思議なパンを与え、岩を割って水をだしてイスラエルを養い続けてくださいました。

バビロンという過酷な環境に連れて行かれたイスラエルに対する神様の働きも同じなのです。だから、神様はイスラエルに対して改めて 16 節のように宣言されています。

51:16 わたしのことばをあなたの口に置き、この手の陰にあなたをかばい、天を置き、地の基を定め、『あなたはわたしの民だ』とシオンに言う。」

イスラエルの人達は、自分たちが【主】の民であり、自分たちの【主】は御言葉を与え、まもりを与え、世界をお造りになった力で彼らを導く方であることを忘れていました。だから、【主】は「あなたは何者なのか」という問いをされ、その答えとして「あなたはわたしの民だ」と宣言されたのです。

みなさんは、自分が【主】の民であることを忘れていないでしょうか。そして、皆さんを【主】の民としてくださる方にとって、みなさんの敵は力のない草のようなものであり、【主】は、みなさんを養い、みなさんをすべての虐げる者から解放してくださる【主】であることを忘れていないでしょうか。

私達は、神様がどのようなお方であり、その神様の民とされた自分たちがどのような存在なのかを見失ってしまう時、正しい現実がみえず苦しみと絶望に酔っている状態になってしまうのです。

2) 憤りの杯の終了宣言「目覚めよ」

だから、神様は「目覚めよ」と言われています。17節を読みましょう。

51:17 目覚めよ、目覚めよ。エルサレムよ、立ち上がれ。あなたは【主】の手から憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。

みなさん、そもそもイスラエルはなぜバビロン捕囚を経験しなければいけなかったのでしょうか？ そう、彼らが【主】に背き、罪を犯し続けていたからです。だから、彼らにとってバビロン捕囚は、神様の怒りが注がれた出来事なのです。でも、神様はそんなイスラエルに対して「あなたは【主】の手から憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。」と言われています。これは彼らが飲むべき【主】の憤りの杯を彼らが飲み終わったことを意味しています。

皆さん、神様は罪を犯した【主】の民を懲らしめ、苦しめることがあります。でも、それは永遠に続くものではなく、必ず、「あなたは憤りの杯を飲み干し終わったよ」と宣言される日が来るのです。

神の民に対する【主】の憤りは永遠ではありません。必ず、終わりがあるのです。でも、そのことに気づかず、ずっと、その【主】の憤りの杯に酔い続けているとどうなるかということ、絶望に捕らわれ続けることになるのです。

だから、そんなイスラエルの【主】の憤りに酔っている状態を指して、【主】は18節では「導く者がなく」「手を取る者がなし」といい、19節では「暴行と破滅」「飢饉と剣」にずっとさらされている状態だといい、20節では彼らの子どもたちも『「気を失い」「倒れ」「【主】の憤り」と「神のとがめ」に満ちている』と言っています。

実際には【主】の憤りの杯は飲み終わっていますから、バビロンにいる状態でも【主】は彼らを導き、手を取り、暴行と破滅、飢饉と剣から守り、いつまでも彼らに対して怒り続けてはおられないのですが、彼らは神様が自分たちを怒り続けている、とがめ続けていると思いつまづいて、酔っ払っている時のように、本来の神様と自分たちの関係がわからなくなっています。そして、彼らは、気力を失って絶望してしまっているのです。

みなさん、確かに神様は私達を叱られるときがあります。でも、神様の怒りはいつまでも続かないのです。

もし皆さんの中に神様の怒りがずっと自分に向けられていると思う人がいるのなら、その思い込みから目を覚ましてください。

【主】は「目覚めよ。目覚めよ」といわれ、あなたが【主】の憤りの杯をすでに

「飲み干した」と宣言されています。

みなさん、これはイスラエルの民だけでなく、現在のわたしたちに語られていることばなのです。なぜならば、私達が受けるべき【主】の憤りの杯は、【主】イエスキリストが身代わりにお受けになられ、【主】に殺されるべき罪人のわたしたちは、【主】イエスキリストと一緒に十字架で死んでいるからです。

イエス様が既に、私達が飲むべき【主】の憤りの杯を飲み干してくださったのです。だから、私達に与えられている杯は、そのキリストの贖いと新しい契約を示す。キリストの血という杯です。

みなさんは先週の聖餐式でそれを確認していると思います。

3) 憤りの杯は取り上げられ移された「もう二度と飲むことはない」

そして、【主】はイスラエルが憤りの杯を飲み干していることを宣言された後、その杯を二度と飲むことがない。とも宣言されています。21 節から順番に読んでみましょう。

51:21 それゆえ、さあ、これを聞け。苦しむ者よ。酔っていても酒のせいでない者よ。

「酔っていても酒のせいでない者よ。」とは、ずっと【主】に怒りを向けられ続けていると思ひ込んで、厳しい状況の中で、本当の神様との関係がわからなくなっている者のことです。

だから、神様はそのように本来持つべき神様との関係の視点を持っていない人にあらためて「これを聞け」と言われます。

みなさん、私達が聞くべき「これ」とはなんでしょうか。22 節

51:22 あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、【主】はこう言われる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯をもう二度と飲むことはない。

私達が聞くべき神様のことば、それは【主】が「ご自分の民を弁護するあなたの神」であるということ。そして、この神の弁護によって憤りの杯は取り上げられ「二度と飲むことがない」ということです。

みなさん、この弁護してくださる神こそ、【主】イエスキリストです。二つの聖書箇所を読みたいと思います。まずはIヨハネ 2:1

Iヨハネ 2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちに、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。

この「御父の前でとりなしてくださる」というのが「弁護してくださる」ということです。続けてローマ 8:34 を読みます。

ローマ 8:34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

ここでも「とりなしてくださる」とあります。【主】イエスキリストはいつも私達のためにとりなしてくださり、弁護してくださるのです。その弁護とはどのような弁護でしょうか？ 「わたしがこの者のために十字架にかかって死にました。この者の罪はわたしたと一緒に十字架で死にました。この者はわたしと一緒に神の子として蘇った者です」そのようなとりなしです。

だから、私達の上から【主】の憤りの杯は取り除かれているのです。

しかし、このとりなしはすべての人に無条件で与えられているわけではありません。イザヤ書に戻って 51 章 23 節を読みましょう。

51:23 わたしはこれを、あなたを悩ます者たちの手に渡す。彼らは、かつてあなたに『ひれ伏せ。われわれは乗り越えて行こう』と言った。それで、あなたは背中を地面のように、また歩道のようにして、彼らが乗り越えて行くのに任せた。」

神様は憤りの杯を誰に渡すといわれていますか？ 【主】の民を悩ました者たちであり、【主】の民の背中を踏みつけて乗り越えていった人達です。つまり、【主】の憤りの杯は、【主】の民の敵対者に渡されるのです。

みなさん、このような預言を受けているのにも関わらず、イスラエルの歴史をみると、バビロン捕囚の後も、彼らは様々な困難に直面しています。ローマによってエルサレム神殿を壊されたり、大きな迫害にあったり、ナチスによって大虐殺

されたり、まるで【主】の怒りがまだ続いているかのようであり、【主】が弁護してくださっていないかのようです。

なぜでしょうか。それは私達、異邦人が救われるためであり、彼らがキリストという弁護人を受け入れていないからです。

みなさん、今日の預言が最終的に成就するのは、イスラエルがバビロンから解放された時ではありません。イスラエルが【主】イエスキリストの救いを受け入れた時なのです。

キリストは、イスラエルを含めてすべての者に対して与えられる【主】の憤りの杯を取り上げてくださるお方です。だから、この預言はキリストによってすべてが完全に成就するのです。

結論)

みなさん、だから私達はキリストによって私達と神様との関係を見直していきましょう。例え【主】に苦しめられていると思えるような状況にあったとしても、私達は創造主なる【主】の民であり、【主】は私達を救い、私達を養い、私達を守ってくださいます。

だから、この世の様々な苦しみで絶望という酒に酔いそうになったとき、キリストによって与えられた【主】と自分の関係を思い出しましょう。

【主】は私達に「目覚めよ。目覚めよ」と言われています。

皆さんは【主】に「あなたは何者なのか？」と問われたときどう答えるでしょうか。【主】は言われます 16 節

51:16 わたしのことばをあなたの口に置き、この手の陰にあなたをかばい、天を置き、地の基を定め、『あなたはわたしの民だ』とシオンに言う。」

私達は、【主】のみことばを口に置かれ、【主】の守りの中で安らぐことが許された【主】の民です。このことをしっかり覚え、この世の人達のことばや、困難を恐れずに歩いていきましょう。